

## 1 総括

学習支援事業、フリースクール事業、免許取得支援事業ともグレーゾーンの方の福祉事業への橋渡しの役割が色濃くなってきている。本人の特性を理解し、意欲を損なわないような環境を創り、ともに学ぶ姿勢で接していくことで、効果を上げることができた。

少数派の特性に寄り添い、理解と共有をしていける地域づくりをしていくことが今後も学園の目指す方向である。

## 2 子どもの学習支援事業（鹿沼市委託事業）

### (1)実施日及び場所

毎週火曜日：南摩コミュニティーセンター

毎週水曜日：鹿沼市民情報センター

毎週土曜日：東部台コミュニティーセンター

毎週日曜日：菊沢コミュニティーセンター

＜その他の活動場所＞

こども食堂 タケノコ（学習指導 不登校相談）

森の小人（学習相談 不登校相談）

文化活動交流館ピュルテ（調理実習 不登校相談 学習指導）

### (2)内容

- ・教科指導 受験指導
- ・芸術活動 音楽 絵画 工芸 コミュニケーション
- ・プログラミング・パソコン指導 ボードゲーム 将棋等
- ・不登校相談等教育相談 保護者交流会 兄弟支援

### (3)講師

教職員退職者、塾講師、大学生 その他 28名

### (4)児童生徒利用者数

小学生46名 中学生48名 高校生5名 計 99名

（こども食堂等は希望者が随時参加）

### (5)成果と課題

- ・今年度も情報センターの参加者が多かった。パソコン室の利用に慣れ、前後半の利用時間を有効に使い、教科学習とのバランスを取りながら学習することができた。
- ・南摩コミセンは小学校低学年児童や特別支援学級利用者が多かったので調理実習やタブレット学習を取り入れ、楽しく学習に参加できるようにした。
- ・東部台コミセンでは、プログラミング教育が進み、小学生が様々な画像を動かせるようになった。

- ・文化活動交流館のカフェピュルテでは、不登校支援 テスト前の学習支援を随時行い、学習意欲を喚起できた。また自信をつけて登校できるようになった。
- ・子育てに悩みを抱える保護者に対して、随時予約制で相談を受けた。発達障害のある児童の不登校相談を受け、近隣の放課後デイサービスを紹介した。
- ・コロナ対策の一環として、食料品、日用品、文房具など緊急支援物資の配布があり、CCV のパンやお菓子も提供することができた。
- ・事業が6年目に入り、児童生徒との信頼関係ができた半面、決められた教室以外で学習しようとする児童生徒がいて苦慮したが、講師の連携で活動にバリエーションを持たせた結果、授業に集中できるようになった。
- ・中学生の時に学習支援でかかわった生徒が高校入学後も学習相談に訪れたので前年の担当講師が対応を継続した。
- ・本年度も年度の切り替え時期に休まず開所したので、春休み中も学習習慣が継続できて好評であった。
- ・菊沢コミセンの参加者が少ないので、絵画指導、タブレット指導などの活動も入れて活性化したい。また、同曜日開催の子ども食堂とも連携して広報し、利用者を増やしていきたい。

### 3 フリースクールでの学習指導

#### (1) 実施日・場所・活動内容

##### ○ 上殿町きずなプラス

毎週水 10:00~13:00 音楽活動 レポート指導 コミュニケーション

毎週木 10:00~13:00 調理実習 読書会 ディズニー研究会 カード会

第2, 4土曜日 音楽練習 各種ワークショップ 親の会

毎週日曜日 地域行事

##### ○ CCV エピック グループホーム

エピック グループホームの利用者との交流、共同学習 調理実習 工芸等

○ 各種スポーツ施設 スイミング ゴルフ 卓球

○ ほわっと自然村 農業体験 アロマセラピー 宿泊体験

○ 子ども食堂 調理実習 コミュニケーション 教育相談

#### (2) 講師

金子幸子 福田精 藤沼清美 反町真帆 加藤詩乃 斎藤加居

その他 Epic 担当講師が兼務

#### (3) 生徒 利用者

小中学生 3名 高校生 10名 専攻科 6名 計19名

#### (4) 成果と課題

- ・小中学生は不登校の状態から CCV に通うことに慣れるまで暫定的に在籍し、受給者証が

取得でき次第 Epic に移籍し、手厚い支援ができた。

- ・高校生3名は、就労体験により自信をつけ著しく成長し、地元の友人がいる高校に転校することができた。

- ・県のフリースクールと教育委員会の連携協議会が教育の機会確保の方向に着手し、フリースクールマップ作りを始めている。5年度には県教育委員会から各市町村に配布され各学校から不登校児童生徒の保護者の手元に案内が渡されるようなシステムが整いつつある。

- ・経済的に困窮している家庭は社会福祉協議会、厚生課と連携し、随時対応した。また、学校所属のケースワーカーの施設見学もあり、少しずつ教育と福祉との連携ができた。

### 3 あおぞら学習支援（運転免許取得支援事業）

#### （1）実施日 場所

毎週土日 CCV Epic その他各所個別対応

#### （2）講師

学園講師 学習支援講師

#### （3）利用者

- ・長期利用者 オンライン2名 対面4名、うち鹿沼に移住1名

- ・短期利用者 月平均3～4名

- ・一回60分から90分の個別指導

（おおよそ45点を7回とれるようになるとつばさプランに入ることができる。）

#### （4）成果と課題

- ・短期利用者は教習所入所中に支援を行い全員免許取得ができた。

- ・長期利用者は2～3年在籍し、週2回程度定期的に受講することができた場合は、少しずつ成績を伸ばしていった。1名が免許取得できた。

- ・遠方から通うことが難しく、定期的な学習ができない場合は、成果が出にくい。オンラインで取り組むか、就労支援、生活支援を含めて、移住して支援を受けることで成果が出ている。入所時に保護者、本人と綿密に話し合うことが必要である。また、途中で学習意欲や成果の確認を保護者・本人と行うことも大切である。

### 4 多様性を認め合うまちづくり

#### （1）NPO 法人福寿会との連携

- ・就労支援 移住支援

- ・就労継続B型事業所「わたの実」とフリースクール利用者の連絡調整

#### （2）ほわっと自然村との連携

- ・野草茶づくり 自然農（火・木10時～15時）

- ・フリースペース事業参画

- ・イベント活動 ワークショップへの参加

(3) こども食堂との連携

- 孤食防止 調理手伝いなど交流の場づくり
- 学習支援 コミュニケーション

(4) こども未来（一社）との連携

子どもの居場所事業 表現活動 サンデーウォーキング等  
文化活動交流館「カフェピュルテ」 シェアキッチン金曜日担当

(5) 住居提供と生活支援

短期宿泊 金子シェアハウス ほわっと自然村宿泊棟

(6) 成果と課題

- ほわっと自然村の農業活動に興味を持った中学生が安心な居場所として定期的に通うことができるようになった。ほわっとメンバーの温かいかわりて、自己表現の力が育ち、会話が広がり、日誌の記入などもできるようになった。その後Epicに在籍し、スポーツ活動への参加ができるようになった。校長先生の訪問の後、学校への出席認定の許可を取ることができた。
- 文化活動交流館のカフェ「ピュルテ」の金曜日担当として調理や接客の技術が身につき、少しずつ来客数も伸びていたが、4年度末で閉店となったしまった。今後、地域のコミュニティーカフェとしての機能を再度つくっていきたい。
- 教習所を卒業した方やワークショップ等がかかわった都内の方々が鹿沼のまちを気に入り、畑を借りたり定期的な学びの場に訪れたりするケースが増えている。5年度にはまた、子ども食堂開設希望の移住者を迎えることになっている。